

# 風土記の丘の花だより<sup>91</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2021年6月19日)

梅雨なのか夏なのか、どちらかわからないような日が続いています。いずれにしてもじめじめした蒸し暑い毎日です。くれぐれも体調管理に注意してください。谷山家住宅でアガパンサスが咲き始めました。水色の花は梅雨のうっとうしさを少しは和らげてくれそうです。何語なのかと思って調べてみると、ギリシア語で愛を表す「アガ



ペ」と花を表す「アンソス」をくっつけた名前だそうです。(諸説あるかも知れませんが・・・)南アフリカからヨーロッパを経由して明治時代に日本に入ってきた花ということでした。(以上、園芸植物図鑑からの受け売りでした。ごめんなさい)谷山家以外でも咲いています。大きいので、遠くからでもすぐにわかりそうですね。



野生ランと聞くと血なまこで探し、掘り起こして持ち帰る人がいるとか、いないとか。でも風土記の丘ではそんな人がいないと信じて紹介します。この花はコクランです。地味な色合いで、きらびやかな花ではありませんが、やっぱりランですね。気品が漂っています。案外近くに咲いているものですよ。



同じくこちらにも野生ラン、お馴染みのネジバナです。安藤塚にはたくさん咲いていますが、他の所でも所々で見かけます。ピンク色の小さな花が花茎に対して、名前のとおり、ねじれるように付いています。よく見ると色の濃淡やねじれ方がそれぞれに違って興味深い花です。風土記の丘では、以前はマヤランやタシロランなども咲いていたと聞きます。キンランやギンランも少なくなりました。ランだけでなく、野山の花をみんなで見守っていきたいですね。



道端にジャノヒゲの白い花がたくさん咲いています。葉を入れずに花だけ写すと、「何の花？」と思ってしまいますが、庭にもよく植えられるお馴染みの草ですね。寒い頃には真っ青な実が付いていてそれも可愛いです。この季節の花も清楚でステキですね。 松下